

育児休業の経験

伊藤悟志

私は松山市内で働いています。(36歳)。

現在結婚9年目、子どもが6歳女兒(小学1年)と4歳男児(年少)です。

第1子の時に2か月間、第2子の時に1年間の育児休業を取得しました。

取得きっかけは「妻にモテたかったから。」という不純！？な動機でした。

取得する前はいわゆる一昔前の男性感で

例えば「料理は女性がしてほしい」「男は稼ぐ」「子育ては女性の仕事」という価値観を無意識に強く持っていたのを覚えています。

そんな昔男子の価値観でも「妻にモテたい」「面白そう」「子どものお世話してみたい」という気持ちが強くなり社内で初、男性の育児休業取得につながりました。

はじめての育児休業に入り2日後、仕事へ行った妻に「僕はトイレにいつ行けばいいの？」と聞いたのを覚えています。

それまで妻が全面的に子育てを担い、私がサポートするくらいの立ち位置でしたから、いざ1人で育児をしていると当時1歳の娘は「後追い」の次期。パパが見えなくなると泣く！歩き始めたばかりで目が離せない！1時間寝かしつけに奮闘しやっと思えばベッドに寝かすと5秒で起きる！

そんな中、自分のトイレに行けなくなり困り果て、気が付くと妻に電話していました。

つまり1年近く隣で子育てを見てサポートしては来ましたが実際に子育ての大変さを知らなかったのだと思います。

そして休業7日目、娘は高熱が3日間続きました。体調が悪いので当たり前ですが機嫌が悪く、抱っこ以外は泣き叫ぶ、抱いていても息が荒く数分で汗だくに。

高熱の3日間、私は座ったまま娘をひざに抱き水分を少しずつ与えながら30分ごとに抱っこしたまま着替えをさせる。親子ともに苦しいスタートをきりました。

ただその3日間で感じたのは「今この子には自分が必要だ」という感覚。

ある意味私の存在価値を高めてくれたような、そのような感覚ではじめは辛かったのですが途中から少し「幸せ」な感覚が混じってきたのを覚えています。

それまで娘はママがいると、絶対ママがいい！と抱っこをせがんでいたのですが

その高熱3日間が過ぎたあたりから徐々にママと同じくらいパパにも抱っこを求めてくるようになりました。

後から学び知ったのですがお世話をすればするほど形成される愛着が形成され始めたのだ

と思います。

はじめての育休は思い出作りとして東北へ10日間旅行にも行きました。家族3人だけの濃い時間を過ごせてとても幸せでした。

ただ2か月の育休では思った以上に時が早く経ち買っていた育児日誌も書けず不完全燃焼に終わったこともあり第2子では1年間の育休を取得しました。

1年間子どもだけを見て過ごせる幸せは文章で伝わるか心配ですが

子どもは毎日成長します。話せない子どもも昨日できなかったことができるようになる瞬間（寝返りや喃語、ハイハイや立ち上がり、初めて話す言葉等々）にすぐ横で見られる！体感する！夫婦で喜び合える！これほどまで幸せなことはありませんでした。

先ほども書きましたが見返りもなくただ求められる存在というのも心地よくあわただしいけどスローな日々でした。

子育ては大変さも知らなかったけど、楽しさも知らなかったことにこの時気づきました。

子育て以外にも良かったことは妻とじっくり話し合えたことです。

今までは時間の関係で省いていた言いたいことを丁寧に話せたし、聴くこともできました。すると思いがけない誤解や考えのずれがあったことに気づき、夫婦関係がよりよくなる期間になりました。育児休業がなければ法律上は夫婦でも、思い描いていた夫婦には成れていなかったかもしれません。365日妻と子どもといる生活。一生で一番幸せな期間だったかもしれません。

そんな子どもと妻との大切な期間をもっと効率よく過ごそうと保育の勉強をし、家事の効率化も夫婦で図りました。すると職場へ復帰した後、休業前には気づかなかった無駄や改善点に気が付いたり、忍耐力、コミュニケーション能力が身に付き人間関係が良好になり仕事がより楽しくもなりました。

子育ては一石何鳥！？であったかわかりません。

これから親になる方々へは子育ては、あわただしいがスローな毎日で妻と子と愛情が濃くなり、ビジネススキルも身に付く人生でも期間限定の幸せな期間なので積極的に育児を楽しんでいただきたいです。